

「通巻100号」を迎えて

石川県白山自然保護センター所長 詠 利明

普及誌「はくさん」が通巻第100号の発行を迎えることができました。この間、関係各位から賜りました御協力に対しまして、心から厚くお礼申し上げます。また、諸先輩方の御努力に対しても深く敬意を表するものであります。

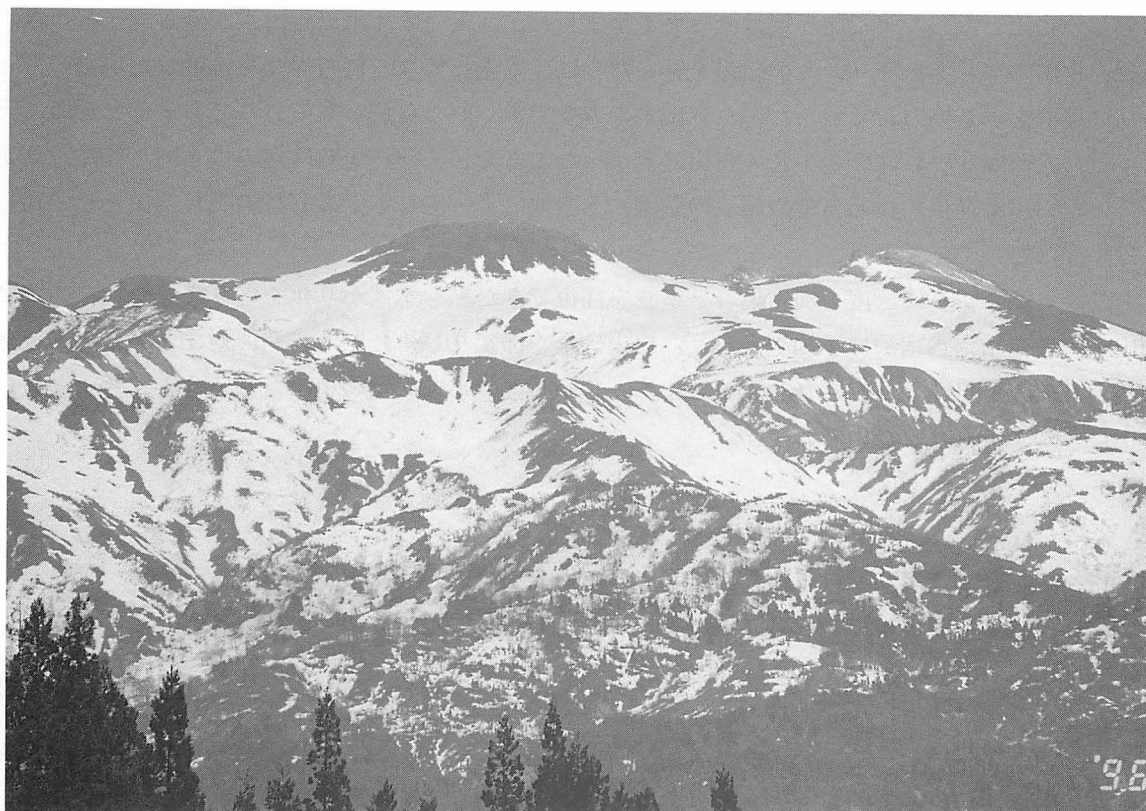
普及誌「はくさん」は白山自然保護センターが主な業務としております、白山地域の地質、動植物、人文・風俗等調査研究の内容を、中・高校生や一般県民の方にも分かりやすく、しかも興味を引く内容として、センター設立以来季刊紙として刊行を続けてまいりました。今回第100号の達成を迎え、職員一同二十有余年にわたるセンターの足跡に思いを新たにしているところであります。

振り返ってみますと、白山自然保護センターは、昭和48年7月に全国で初めての県立の自然保護センターとして、白山国立公園を中心とした白山ろく1町5村の自然と文化の調査研究業務を中心とした機関として設置されました。以来、白山ろく一帯の自然の素晴らしさと自然の大切さを県民に伝える努力を行ってきました。

この24年に及ぶ中で今年は大きな出来事がありました。それは当センター中宮展示館が雪崩により建物が半壊し、展示室内部も大量の雪と倒木で埋まり、平成6年8月に全面改修したブナ林展示室が被災したことであります。今年は年明けから降雪量が増え、50年ぶりとされる大規模な雪崩が発生しました。白山の自然の素晴らしさを語るときの、代表の一つとして紹介するブナ林展示室が僅か2年で全壊となったことは大変残念なことであります。現在は被害のなかった展示スペースでの一部開館となっておりますが、一日も早い復旧を願っているところであります。

近年私達は自然の素晴らしさを身近に体験できる機会が増えてきましたが、まだまだ人間の力では防ぎきれない自然の怖さ、恐ろしさのある事を知り、改めて自然に対し畏敬の念を持たなければならないとの思いをしているところです。今後の施設の整備や管理方法にも、この雪崩を教訓とした対策が必要であると痛感しております。

また、平成7年度から環境庁事業として白峰村で着手しております、緑のダイヤモンド計画では、自然体験利用システムとして自然体験フィールドの整備、別当出合、南竜ヶ馬場の登山センター、ビジターセンター等の建設が進められております。今後、白山や白山ろくの自然・文化がより一層理解されるものと確信しており、当センターの普及活動が今後ますます期待されるものと思っております。



(写真提供 四手井英一)

始めにゴミ掃除あり

四手井英一

白山自然保護センターに1973年4月1日から1979年3月31日まで在職。現在、石川県林業試験場。

私が動物担当の水野君（元次長）と共に白山自然保護センター設立のためのレンジャーとして赴任してきたのは、昭和46（1971）年の6月でした。当時の白山自然保護センター設立の窓口は県の観光課にあり、課長以下観光課の職員、環境庁から出向して来ていた2名の職員、白山国立公園管理員などと共に、白山国立公園のことや、自然保護センターの建物、そこに展示する展示の内容づくりなど白山自然保護センター設立の準備に追われる毎日でした。

特に思い出深いのは白山のゴミ処理の問題でした。初めて白山へ登ったときに、別当出合はもとより、甚之助避難小屋、南竜ヶ馬場、室堂、白山山頂に至るまでゴミがゴミ箱からあふれだし、お花畑の中に至るまで散乱しているのには大変驚きました。当時白山で共に仕事をしていた白峰村の山田健治さんや永井竹男さん等にこのゴミの問題をどのようにしたらよいかと聞かれ、即座に思い付いたのは「ゴミ箱が有るからゴミが出る。ゴミ箱が無ければよいのではないか、持って来たゴミは持って帰ってもらいましょう」ということでした。

最初はかなり反対意見も有りましたが、実際にゴミ箱一杯になったゴミを片付ける方法も無いことから、試しにやってみることにになりました。白山からゴミ箱をすべて無くし、別当出合でゴミ持ち帰り用の袋を配布してゴミ持ち帰りを宣伝し、また散らばっていたゴミの回収を徹底的にするようにしました。このゴミ持ち帰り運動は、最初のうちは登山者の抵抗や抗議もありましたが、次第に定着するようになり白山も少しずつ美しくなりはじめました。

後に自然保護センターの公園指導員の方々が担当するようになってからはなおのこと、徹底的にゴミ掃除（煙草の吸い殻一本まで）をし、持ち帰りをやかましいほどに登山者に訴えた結果が、今

の美しい白山となったのです。案はそのとき出ましたが、実際に汗水流し汚水が滴るゴミを担ぎ下ろし、白山の美しさを守り、今の結果を築いたのは、率先してゴミ持ち帰りを推進した現場の方とそれに理解を示し協力していただいた登山者の方々です。いくら良い案であってもそれを懸命に実行する人達がいなければ今の美しい白山は無かったことでしょう。一時は他の山と同じ様に荒れ始めていた白山も植生の復元事業や施設の整備、その他によって日本でも有数の美しい山として知られるようになっていきます。

あれから25年、日に三度も別当出合と室堂を往復できた私もすっかり年をとりました。その間に登山者の数も増え、宿泊は予約制となり、白山は全く様変わりしました。自然に対する考え方も大きく変わり、人と自然の共存も言われています。しかしどのように世の中が変わろうと、今の美しい白山をいつまでも残したいものです。

白山スーパー林道開通のころ

高桑 守

白山自然保護センターに1976年10月1日から1979年3月31日まで在職。現在、筑波大学歴史人類学系。

白山自然保護センターに身を置いたのは、わずか2年半のことであったが、この2年半は、その後の私の人生の中で大変大きな位置を占めている。私が、「お金よりも、勉強する時間が欲しい」という気持ちで、千葉徳爾先生（当時明治大学文学部）のおさそいをうけ、当時勤めていた東京の出版社をやめ、白山に赴いたのは、ちょうど20年前の10月のことであった。同じ石川県の出身でありながら、それまで、ほとんど白山と縁のなかったこともあって、いささか緊張しながらまた心細い気持ちで当時、庶務課長であった山口さんの車で、中宮のセンター施設まで案内していただいた。以来2年半、ここで職場の皆さんや地域の皆さんと親しく生活を送ることができた。

当時センターに勤務していた人々は、ほとんどが30歳前後の私とほぼ同年代の方たちであったこともあり、すぐに職場の雰囲気にもうちとけ、研究普及課の人文担当の技師として、これまでほとんどうかがうことがなかった自然分野の研究を間近にみながら、中宮と市原（当時の本庁舎は中宮にあり、宿舎は市原にあった）を往復する日々を送った。このころは白山地域は大きな変化をしていた時期で、白山スーパー林道の建設や手取川ダムの建設など、またそれに伴う工事があちこちで行われ、センター職員にとっても、環境の変化によって地元の人々の生活のあり方がどのように変わっていくのか、植生や動物に与える影響と共に大きな関心事であり、ことあるごとに議論をしたことを憶い出す。白山スーパー林道の部分開通と共に、多くの人々がここを訪れ、その為、道路が大渋滞となり、中宮センターへ行くのに大変苦労したことも記憶に新しい。また在職中に中宮の展示施設が表層雪崩（アワ）の為、半壊し、アワのもつ破壊力の大きさをあらためて思い知らされたこともあった。それにつけても、職員一同でよく飲んだ。ことあるごとに焼肉を囲み、酒を飲み、時にはけんかともまごう激論もたたかわされた。一人一人が白山への思いをもち、それに向けて若い情熱を傾けていた。そんな時代であった。はやいもので白山を離れて20年近く時は過ぎたが、冒頭にも触れたように、ここで学んだ様々なことは、当時、金よりも時間を求めた私自身の若さと相まって、その後も私の心身のすみずみにしみわたり、とるべき道の指針となってきた。今、当時の一人一人の顔を思いおこしながら、感謝の気持ちをささげながら筆を置こう。

白山の川に学んだこと

谷田 一三

白山自然保護センターに1979年10月1日から1983年3月31日まで在職。現在、大阪府立大学総合科学部。

3年半の短い白山ろくだったが、院生生活後初めての勤務、58豪雪など、忘れがたい波乱に富んだ期間だった。湛水開始後の手取川ダム湖のプランクトン動態追跡とならんで、学生時代から調査していた白山の水生昆虫の調査も続けた。センター勤務の時は、白山の河川、とくに本流や大きな支流（本谷）に対する印象や興味は深くなかったが安定した虫の多い川に目が向いた。

調査では支沢や細流に向かったが、カワゲラとブユの分類・生態研究の第一人者であるドイツのツピック博士の来山時も、カワゲラとブユの多い支沢や、小赤谷川を案内した。博士は、世界的にもすばらしい溪流と感激され、採集された未記載種（新種）のブユは、白山が模式産地となり私の名前が付いた。少々面映ゆい思い出。

白山での水生昆虫調査は、トビケラ親虫の灯火採集と雪カワゲラの調査。月に1回センター（中宮）と市ノ瀬の事務所で灯火採集を実施した。中宮センターでの採集は、勤務を終え玄関に白布を張り、蛍光灯やブラックライトを点灯し、まず温泉に向かう。その後食事をとりながら快適な調査。雪カワゲラの採集も、雪に閉じこめられた冬にはかっこうの気分転換。天候が安定する2月下旬から4月上旬まで、仕事の合間の晴天の雪上歩行は、勤務から解放された楽しい時間。雪の上に黒ゴマのように見えるカワゲラは、モノトーンながら美しい光景だった。ブナオ山を背景にした写真は、さる雑誌の表紙にも採用された。

水生昆虫の親虫調査を始めたのは、それなりのわけがある。トビケラでは、現在でも幼虫で種名のつくのは100種以下、記載種は300種を越え、未記載種も含めると1,000種近くになる。正確な種類相把握には、どうしても親、特に雄親の形態的分類が不可欠だった。

1980年代のセンター研究報告に載せたトビケラとカワゲラについての2つの論文は、引用されることは少ないが、その後盛んになった水生昆虫の親虫調査の先べんになった。ただ、当時の私の能力の限界から、未同定の種類や誤同定した種類もあり、今後の補訂と改訂は不可欠だ。生物多様性や保全学研究的の基盤になる分類研究は、労力や時間から敬遠されるが、白山での経験は、私がこの基礎研究に注目する転機となり、「日本産シマトビケラ属の分類再検討」や『日本産水生昆虫検索図説』の基礎ともなった。

荒れ川で川虫の少ない本流や蛇谷など本谷の面白さは、在任中にはわからなかった。蛇谷禁漁区の設定に伴ってはじめて底生動物のモニタリング調査は、年1度のペースで10年以上続けた。そこで、中部山岳特有の本谷河川の動態も少しは想像できるようになった。

白山など土砂供給（崩壊地）が多い地域では、支沢に比べて傾斜の緩い本谷では、土砂堆積の卓越する状態になる。砂防えん堤や狭さく部の上流では、この傾向が加速される。巨石が散在しても、その下は石、砂利、砂がルーズに重なったソフトボトム（軟底）の河床。軟底上の河川は、流路が不安定で、表流水に比べて川底より下を流れる垂表流水や地下水が多い。少々の増水で河川生物群集が破壊されるのは流路や川底の不安定さによるし、夏に川底深く休眠する雪カワゲラが多いのは、河床内の流水が多いことによる。

白山の本谷は複雑で、単純な類型化では生物や河川の様相は解らない。土砂の浸食と堆積、河道と流路との相対的な関係のあり方で、再定義・区分する必要がある。これは「思い出」を越えた話、ここではその端緒を与えてくれた蛇谷とセンターに感謝を表して、稿を終わる。

白山自然保護センターのあゆみ



白山自然保護センター本庁舎

これまでのあゆみ

- 昭和30年 7月 白山国定公園（47,402ha）の指定
- 昭和37年 11月 白山国立公園に昇格
- 昭和41年 ニホンザル「カムリA群」の餌付けに成功
- 昭和42年 10月 獅子吼・手取県立自然公園（6,626ha）の指定
- 昭和47年 7月 「蛇谷自然公園」開園
- 昭和48年 7月 「白山自然保護センター（現中宮展示館）」開館
- 9月 白山一里野県立自然公園（1,826ha）の指定
- 昭和52年 8月 「白山スーパー林道」開通
- 昭和56年 2月 白山地域がユネスコの「生物圏保存地域」に指定される
- 12月 「ブナオ山観察舎」開館
- 昭和57年 7月 「市ノ瀬駐在所」駐在開始
- 白山国立公園指定20周年記念事業
- 昭和58年 4月 「尾添川禁漁区」の設定
- 7月 「白山自然保護センター本庁舎」の竣工
- 昭和61～62年 加賀禪定道整備
- 昭和61年 9月 白山国立公園拡張（47,700haに）
- 昭和62年 7月 白山国立公園指定25周年記念事業
- 白山のシンボルマーク決定
- 平成4年 5月 市ノ瀬ステーション（国設白山鳥獣保護区管理センター）開設
- 7月 白山国立公園指定30周年記念事業
- 平成6年 8月 中宮展示館改装開館
- 平成7年 5月 野猿広場でのニホンザルの餌付け中止
- 平成8年 2月 中宮展示館、雪崩による被害

白山自然保護センターの業務

白山自然保護センターでは、普及教化、保護管理、調査研究を3つの柱として白山地域の自然環境の保全と利用を図るため様々な事業を進めています。

普及教化

白山自然保護センターには、白山の豊かな自然、歴史と自然保護について、理解を深めてもらうための中宮展示館（白山国立公園中宮温泉ビジターセンター）、市ノ瀬ステーション（国設白山鳥獣保護区管理センター）、ブナオ山観察舎があります。来館舎とのふれあいの中から、自然への興味と関心、自然保護の大切さを知ってもらう努力をしています。

また、自然観察会を開催しているほか、白山の動植物、地質、人々の暮らしについての調査研究、自然復元のための事業それらを分かりやすく解説するための講演会、普及誌「はくさん」、「白山の自然誌」シリーズなどの出版物の発行、自然教育のための映画、ビデオの制作を行ってきました。

保護管理

白山国立公園、白山一里野県立自然公園及び獅子吼・手取県立自然公園において、自然公園の計画・管理、公園利用者の指導、自然公園法・自然公園条例に関する許認可業務を行っています。

調査研究

白山地域の自然環境の保護と秩序ある利用を図るため、動植物、地質、人文などについて基礎的、応用的な研究を行っています。同時に、調査研究等を通して集められた資料、標本類の整理、管理も行っています。

研究成果は「石川県白山自然保護センター研究報告」や各種報告書としてまとめ、発表公開しています。

白山自然保護センターの施設

中宮展示館（白山国立公園中宮温泉ビジターセンター）

中宮展示館は、吉野谷村中宮にあり、昭和48年に白山自然保護センターが開設されると同時に中宮展示館が併設されました。その後、昭和58年、吉野谷村木滑に通常の業務を行う本庁舎が完成し、移転した後も、白山地域の自然を紹介する中心的な施設として、現在に至っています。開設から20年を経た平成5年8月から1年間の大規模な改修工事を行い、館内の展示設備を一新しました。白山のブナ林とそこに生きる動植物、またそこを生活の場としてきた人々の暮らしやブナ林の保護について紹介する「ブナ林展示室」、白山のほ乳類、鳥類、高山植物、岩石や化石などの標本展示のほか、ハイビジョン映像による白山の自然を紹介するハイビジョンコーナーがある「レクチャーホール」、白山や自然・人文に関する図書、ビデオ、パソコンで自然について学ぶことができるパソコン学習コーナーがある「フリースペース」を設けました。

平成6年8月に再オープンした中宮展示館ですが、平成8年2月、雪崩の被害を受け、ブナ林展示室には大量の雪が入り込み展示物のほとんどがだめになってしまいました。現在、復旧に向け努力しているところです。

中宮展示館周辺には、「大自然そのものが博物館」の考えにもとづき、けものや鳥、植物の観察ができる「蛇谷自然観察路」や「野猿広場」、イワナや水生昆虫の観察ができる「川の生態観察園」が設けてあります。「野猿広場」では、昭和40年から吉野谷村の努力により、野生のニホンザルの群れの餌付けに成功しました。現在では餌付けに成功したカムリA群のほか、カムリA群から分裂したカムリC群、カムリF群の観察ができますが、平成7年からは餌付けを中止し、ニホンザルを「山へ帰す」努力をしています。

ブナオ山観察舎

ニホンカモシカ、ニホンザル、イヌワシなど白山を代表する野生動物を直接観察できる施設として昭和56年に全国に先がけて開設されました。観察舎は2階建てで、1階は解説パネル、ニホンカモシカの剥製や骨格標本、ニホンザルやノウサギなどの食べ跡やフンが展示してあります。2階には大型双眼鏡、望遠鏡が設置してあり、ブナオ山観察舎の向かいの山斜面に現れる野生動物を観察できます。開館期間中は、センターの職員が駐在し、観察の指導をしているほか、ミニ観察会を実施しています。

市ノ瀬ステーション（国設白山鳥獣保護区管理センター）

平成4年5月に市ノ瀬登山センターに隣接して開設されました。木造平屋建ての館内には、市ノ瀬周辺で観察できる鳥の声と姿を学べるバードコーナー、案内パネル、ビデオコーナーがあります。また、市ノ瀬ステーションでは、周辺の観察コースなどを利用して月1回、ミニ観察会を行っています。市ノ瀬は、白山登山の重要な拠点となっていることから、開館期間中はセンター職員が常駐し、登山指導や利用案内も行っています。

白山自然保護センターの催し物・出版物

自然観察会

昭和48年から今まで白山の山頂部や、山ろく各地で年数回の自然観察会を行ってきました。平成8年度は、6月に「新緑の白山ブナ林自然観察会」を行いました。去年はブナが豊作で、たくさんの種子が落ちたため、たくさんのブナの芽生えを観察することができました。10月には、「紅葉の白山ブナ林自然観察会」を行います。

これら以外にも、中宮展示館、市ノ瀬ステーションでは、当日来館した方を対象にミニ観察会を行っています。冬には、ブナオ山観察舎周辺で、ニホンカモシカ、ニホンザル、雪の上に残る動物の足跡、植物の冬芽などを観察するミニ観察会を予定しています。

そして今年度から、白山国立公園などの利用者に新しい自然体験・学習の機会を広く提供するため「白山自然ガイド養成講座」を開催し、自然観察のための指導者（インタープリター）育成の事業を始めました。9月25日、26日には第1回の講座を開催し、自然解説や白山の動植物、地質の講義の後、白峰村で実習を行いました。今年度中にあと2回の講座を予定し、今後、自然観察会などで実際に指導にあたってもらうことにしています。



紅葉の白山ブナ林自然観察会

講演会

これまで「白山のブナを考える」、「白山の保護と利用」などのテーマで講演会・シンポジウムを開催してきました。今年度は県民ナチュラリスト講座として講演会を行いました。白山の自然シリーズを7月15日、22日の2回にわたり金沢市の石川県社会教育センターで行い、白山自然保護センター職員が講演しました。当日はたくさんの方に御来場いただきました。

普及教化用出版物・視聴覚教材

白山地域の自然及び自然保護の正しい理解と普及のため、普及教化用出版物である普及誌「はくさん」、「白山の自然誌」シリーズなどの発行や視聴覚教材の企画を行っています。

普及誌「はくさん」

白山の豊かな自然や山麓での人々の暮らしなどを分かりやすく解説した年4回発行の小冊子です。執筆は、白山自然保護センター職員のほか白山に関わりのある方々をお願いしています。

中宮展示館など白山自然保護センターの各施設で無料で配布しているほか、希望者には送料を負担していただいて、送付しています。

「白山の自然誌」シリーズ

白山の動植物や地質・人文についてテーマを決め、写真や図を多く用いて、できるだけ分かりやすく解説した小冊子で、年1回発行しています。これまで16誌が発行されています。

中宮展示館など白山自然保護センターの各施設で無料で配布しているほか、希望者には送料を負担していただいて、送付しています。

タイトル	発行年月日	主な内容
白山の自然誌 手取統の化石	昭和54年8月	1億4千万年前の手取の森について解説
白山の自然誌2 ブナ林の自然	昭和56年9月	ブナ林とそこに生きる動植物や人々の暮らしの紹介
白山の自然誌3 蛇谷の自然	昭和57年9月	原始性の高い蛇谷の自然について、その環境、生きものについて紹介
白山の自然誌4 イヌワシの生態	昭和58年12月	イヌワシの1年間の生活、保護について紹介
白山の自然誌5 白山のツキノワグマ	昭和60年3月	ツキノワグマの暮らしについて紹介
白山の自然誌6 白山の高山帯	昭和61年3月	白山の高山帯の地質とそこにすむ動植物について解説
白山の自然誌7 白山の出作り	昭和61年12月	白山ろくの出作りについて、分布、土地利用、農耕形態などについて紹介
白山の自然誌8 ニホンザルの四季	昭和63年3月	ニホンザルの生活とニホンザルとのつきあい方について解説
白山の自然誌9 イワナと水生昆虫	平成元年3月	イワナ、カジカ(ゴリ)、水生昆虫について解説
白山の自然誌10 ニホンカモシカの1年	平成2年3月	白山のニホンカモシカの1年の生活とその保護について解説
白山の自然誌11 白山の高山植物	平成3年3月	白山の代表的な高山植物とその生育環境について紹介
白山の自然誌12 白山火山	平成4年3月	白山火山の生い立ちや古文書に記されている噴火記録などについて解説

白山の自然誌13 クマタカとイヌワシ	平成5年3月	明らかになってきたクマタカの生態をイヌワシと比較
白山の自然誌14 蛇谷の地形と地質	平成6年3月	蛇谷溪谷の地形、地質を解説
白山の自然誌15 白山の焼畑	平成7年3月	白山ろくで消滅寸前の状態にある焼畑の実態について解説
白山の自然誌16 白山のキノコ	平成8年3月	キノコの生活や自然界における役割、白山で見ることのできるキノコの紹介

16ミリ映画・自然教育教材ビデオ

昭和53年度と54年度には16ミリ映画を各1本ずつ制作しました。昭和59年度以降は、ほぼ2年で1本の割合で自然教育教材ビデオを制作しています。これらの視聴覚教材は中宮展示館で希望に応じて上映しているほか、一般への貸し出しも随時行っています。

企画映画

タイトル	規格	時間	制作年度	内容
自然 そのたくましき営み ー白山の動植物を探るー	カラー 16mm	32分	昭和53ー 54年度	白山地域の自然を代表するニホンザル、ニホンカモシカ、ブナ林、高山植物、白山火山等について紹介
山に生きる	カラー 16mm	32分	昭和53ー 54年度	白山ろくで昔から営まれてきた出作り、焼畑といった伝統的な生活、豪雪の中の暮らしについて紹介

自然教育教材ビデオ

タイトル	規格	時間	制作年度	内容
冬を生きるニホンカモシカ	カラー VHS ベータ	18分	昭和59ー 60年度	白山の厳しい冬を生き抜くニホンカモシカの生態について紹介
白山ろくのトチモチづくり	カラー VHS ベータ	13分	昭和 61年度	山村の伝統的な食べ物であるトチモチの加工工程について紹介
化石が語る太古の白山	カラー VHS ベータ	11分	昭和62ー 63年度	白峰村桑島の化石壁で出土した化石を通して1億数千万年前の白山地域の自然環境を紹介
桑島の恐竜化石	カラー VHS ベータ	4分	昭和62ー 63年度	白峰村桑島の化石壁で出土した恐竜の化石を紹介
お花畑の四季 ー白山の高山植物ー	カラー VHS ベータ	12分	平成元ー 2年度	白山山頂部の高山植物の生態や高山帯の自然を紹介
白山のブナ林	カラー VHS ベータ	12分	平成3ー 4年度	白山地域のブナ林の四季の姿や、そこに生育する動植物を紹介
山を降りるサル ー白山麓のニホンザル を追ってー	カラー VHS	15分	平成5ー 6年度	白山麓のニホンザルの生態と農作物の被害状況について紹介

はくさん 索引

通巻47号(第11巻1号)～通巻100号(第24巻2号)

第10巻第4号(通巻46号)に創刊号から第10巻までの「はくさん」の目録を載せましたが、この通巻100号の節目に、残りの目録を載せます。

各項目は、表題、著者、通巻、巻一号の順に列記してあります。当センターには残部があるものもありますので郵送料を負担していただければ、お送りします。センターまでご連絡ください。

《地学》

地すべり・斜面崩壊	小川 弘司	48	11-2	剣ヶ峰 <表紙>	東野外志男	84	20-2
白山火山高山・亜高山帯の泥炭地と火山灰	遠藤 邦彦	50	11-4	大汝峰 <表紙>	東野外志男	85	20-3
白山火山の形成年代 -K-Ar 年代測定より-	東野外志男 板谷 徹丸	50	11-4	白山地域にみられる二重山稜と沼	國光 正宏	86	20-4
中ノ川流域の侵食量	東野外志男	52	12-2	別山 <表紙>	東野外志男	86	20-4
こんな発見、あんな記録5 岩間の火山岩はいつできたか	東野外志男	52	12-2	百万貫岩 <表紙>	東野外志男	92	22-2
剣ヶ峰は中央火口丘	東野外志男 清水 智	58	13-4	太古の森を尋ねて	鈴木 三男	93	22-3
白峰村から発見された恐竜化石	東 洋一 長谷川善和	59	14-1	手取川の甌穴群 <表紙>	東野外志男	93	22-3
桑島化石壁の恐竜	松尾 秀邦	59	14-1	手取川の河岸段丘 <表紙>	東野外志男	94	22-4
岩間噴泉塔群の成長	紙谷 威	63	15-1	白山麓、鷲走ヶ岳の月長石流紋岩	石渡 明 石田 勇人	96	23-2
白山の三主峰の年令くらべ	東野外志男	64	15-2	手取川大水害と手取川上流地域の土砂移動-百万貫岩はどこからきたか-	島津 弘	97	23-3
白峰村の百合谷珪化直立樹幹 <表紙>		64	15-2	三ツ石-手取川のもう一つの巨岩-	東野外志男 山口 一男 小川 弘司 三原ゆかり	97	23-3
昭和10年の白山の異変 千仞滝付近に出現した「噴気孔」	東野外志男 山崎 正男	68	16-2				
石川県の酸性雨	北村 守次	73	17-3	《植物・キノコ》			
白山火山の歴史時代の活動(1)	東野外志男	73	17-3	ブナ林と集落 <表紙>	岩田 憲二	47	11-1
白山火山の歴史時代の活動 古文書の記録をもとに(2)	東野外志男	75	18-1	ハクサンフウロの花粉 <表紙>	辻 誠一郎	50	11-4
岩間の噴泉塔群 <表紙>		75	18-1	白山高山帯の植生史をさぐる	辻 誠一郎	50	11-4
白山火山の歴史時代の活動 古文書の記録をもとに(3)	東野外志男	76	18-2	除草回数とブナ苗木の生長について	八神 徳彦	54	12-4
桑島の「手取川流域の珪化木産地」<表紙>		76	18-2	ブナ・シンポジウムに参加して	浅井 孝雄	55	13-1
白山火山の歴史時代の活動 古文書の記録をもとに(4)	東野外志男	77	18-3	ブナ林の保護	八神 徳彦	55	13-1
白山での地磁気測定	長尾 年恭	78	18-4	ブナ・シンポジウム資料集から <コラム>		55	13-1
白山の重力異常	河野 芳輝	78	18-4	白山高山帯の植生を復元するために	菅沼 孝之	56	13-2
白山の地震(1)	河野 芳輝 東田 進也	78	18-4	白山山系の低地型ブナ林	古池 博	58	13-4
白山の地震(2)	河野 芳輝 東田 進也	79	19-1	五十谷の大スギ <表紙>		59	14-1
白山火山の歴史時代の活動 古文書の記録をもとに(5)	東野外志男	81	19-3	白山山系のトリカブト属植物について	門田 裕一	60	14-2
御前峰 <表紙>	東野外志男	83	20-1	太田の大トチ <表紙>		60	14-2
				夜泣き公孫樹(イチョウ) <表紙>		61	14-3
				曲戸の樺 <表紙>		62	14-4
				高山植物の復元と肥料	八神 徳彦	63	15-1
				白山のササ群落	古池 博	66	15-4
				こんな発見、あんな記録7 ハクサンマリモ? 実はホソカワモズク	梅 典雅	69	16-3

手取川の植物	古池 博	69	16-3	白山のニホンカモシカは喜獣ではない	水野 昭憲	65	15-3
カタマリヒゲマワリ <表紙>		71	17-1	手形と足形 <白山のサルの身体検査>	岩本 光雄	70	16-4
ホシガタケイソウ <表紙>		72	17-2	寄生虫相 <白山のサルの身体検査>	後藤 俊二	70	16-4
高山植物の復元と肥料 その2	郷原 吉宏	74	17-4	雪国のニホンザル<白山のサルの身体検査>	相見 満	70	16-4
白山麓のヒメザゼンソウ	米山 競一	76	18-2	初めての捕獲調査<白山のサルの身体検査>	滝澤 均 水野 昭憲	70	16-4
御仏供杉 <表紙>		77	18-3	麻酔について <白山のサルの身体検査>	羽山 伸一 赤松 里香	70	16-4
ブナ林の復元始まる <写真構成>		77	18-3	身体の大きさと歯の萌出 <白山のサルの身体検査>	渡辺 毅 浜田 稔	70	16-4
ハクサンフウロ <表紙>	米山 競一	79	19-1	サルの増加・被害の増加	水野 昭憲	74	17-4
ハクサンオミナエシ <表紙>	米山 競一	80	19-2	ツキノワグマの大量捕獲ー昭和63年のクマ猟アンケートよりー	野崎 英吉	76	18-2
白山のブナ林のきのこ	池田 良幸	81	19-3	現代サルカニ合戦ーニホンザル個体群管理調査ー	野崎 英吉	79	19-1
ハクサンシャクナゲ <表紙>	米山 競一	81	19-3	ー白山蛇谷の自然誌ーニホンザルのフンコロジー	林 哲	83	20-1
白山の植物に寄せて	清水 建美	82	19-4	希少動物調査を実施中 ヤマネ・モモンガ・オコジョの情報をお願いします	水野 昭憲	89	21-3
白山麓の巨木 (1) スギ	田中 敏之	82	19-4	ー首輪をつけたサルーニホンザル個体群管理	三原ゆかり	90	21-4
ハクサンイチゲ <表紙>	米山 競一	82	19-4	室堂にタヌキ	野崎 英吉	92	22-2
白山麓のアブラチャン	米山 競一	82	19-4	白山のトガリネズミ類ートガリネズミと“アズミトガリネズミ”についてー	子安 和弘	94	22-4
白山麓の巨木 (2) ブナ科の樹木	田中 敏之	83	20-1	里山のニホンカモシカ	林 哲	95	23-1
白山麓の巨木 (3) トチノキ・ケヤキ	田中 敏之	85	20-3	市ノ瀬に訪れたコウモリたち	三原ゆかり	98	23-4
白山麓の巨木 (4) イチョウ等	田中 敏之	87	21-1	ニホンザルを山に帰そうー白山ジライ谷での人工給餌の中止ー	林 哲	99	24-1
シラウオタケ <表紙>	米山 競一	87	21-1	鳥 類			
白山のブナ林のきのこ (2) 木材腐朽菌	池田 良幸	88	21-2	こんな発見、あんな記録1 中宮にツキノワガラス出現	中村 正博	47	11-1
ツキヨタケ <表紙>	米山 競一	88	21-2	こんな発見、あんな記録4 白山麓で見つかった海鳥 オオミズナギドリ	上馬 康生	50	11-4
コゲエノヘラタケ <表紙>	米山 競一	89	21-3	今冬の自然保護センターにきた鳥たち	上馬 康生	54	12-4
バイオを使った自然保護	野上 達也	90	21-4	高山の鳥 イワヒバリ	上馬 康生	58	13-4
シロキクラゲ <表紙>	米山 競一	90	21-4	白山のクマタカ	上馬 康生	66	15-4
白山のブナ林のキノコ (3) ーチャワンタケ類ー	池田 良幸	92	22-2	クマタカを追跡する <写真構成>	上馬 康生	73	17-3
白山麓のミズバショウ	米山 競一	94	22-4	クマタカを追跡する その2	上馬 康生	74	17-4
高山植物のバイオによる増殖について	島田多喜子	98	23-4	イヌワシとクマタカのすみ分け	上馬 康生	77	18-3
白山室堂平の高山植物ー23か年の継続観察結果よりー	菅沼 孝之 辰巳 博史	99	24-1	ニュウナイスズメの繁殖ー県内初認記録ー	上馬 康生	80	19-2
				スズメ、ムラを出すー白山麓のムラとスズメー	林 哲	90	21-4
				イワヒバリの冬の生息場所	上馬 康生	92	22-2
				台風の置き土産 シラオネツタイチョウ	上馬 康生	92	22-2
				イワヒバリの夏のくらし 1	上馬 康生	98	23-4
				イワヒバリの夏のくらし 2	上馬 康生	99	24-1
				昆 虫			
				こんな発見、あんな記録5 乗っ取り屋！チャイロスズメバチ	水野 昭憲	57	13-3

《動物》

ほ 乳 類

冬眠グマ調査行	野崎 英吉	47	11-1
こんな発見、あんな記録2 白山のサルたちの寄生虫	堀井洋一郎	48	11-2
こんな発見、あんな記録3 石川県にもいたハクビシン	水野 昭憲	49	11-3
山の不作とニホンザル	水野 昭憲	49	11-3
ニホンザルがなぜ大量死に至ったか	志鷹 敬三	52	12-2
白山蛇谷のニホンザルー豪雪と極寒の中でー <写真構成>	志鷹 敬三	52	12-2
新聞記事にみるツキノワグマ	田中 敏之	54	12-4
石川県のシカ	野崎 英吉	55	13-1
死傷61・行方不明多数ー白山のニホンカモシカ10年の記録	水野 昭憲	56	13-2

尾添川の水生昆虫と河川生物	谷田 一三	61	14-3	東二口 文弥人形浄瑠璃〈写真構成〉	62	14-4
蛇谷のクモ	東 勝公	64	15-2	白山麓の民具教室-1 <山に生きる9>白峰村大道谷の尾 田清正家	伊藤常次郎 岩田 憲二	63 15-1 63 15-1
白山登山するアキアカネ	上田 哲行	71	17-1	白山麓の民具教室-2	伊藤常次郎	64 15-2
白山のショウジョウバエ	佐伯 芳造	71	17-1	白山麓のくらしと猫	叶内 敦子	64 15-2
白山高山帯のクモ類	高 順一郎	71	17-1	白山麓の民具教室-3	伊藤常次郎	65 15-3
竹筒に巣をつくるハチ	大串 龍一 中村 浩二	75	18-1	白山麓の民具教室-4	伊藤常次郎	66 15-4
白山麓で観察できる昆虫類-春・初夏編-	富樫 一次	95	23-1	炭焼きについて考える	畑尾 均	67 16-1
白山で観察できる昆虫-夏・秋編-	富樫 一次	96	23-2	白峰村の牛首袖〈表紙〉		67 16-1
そ の 他				鶴来町の手作りノコギリ〈表紙〉		68 16-2
蛇谷のイワナ	中村 智幸 丸山 隆	61	14-3	<山に生きる10>下田原の自然の中 で暮らして 山口清太郎さん	岩田 憲二	69 16-3
日本のイワナ 手取川のイワナ	丸山 隆 斉藤 裕也	61	14-3	白山麓の生祠 尾添の開成社	小倉 学	69 16-3
イワナのサンクチュアリー 蛇谷 〈写真構成〉		61	14-3	尾口村深瀬のイワナ養殖業〈表紙〉		69 16-3
ゾウミジンコ〈表紙〉		73	17-3	吉野谷村木滑のナメコ栽培〈表紙〉		70 16-4
ハネウデワムシ〈表紙〉		74	17-4	<山に生きる11>白峰村三ツ谷の再 興を願って 林 七蔵さん	岩田 憲二	72 17-2
《人文》				瀬波のスゲ馬 ショウブ流し	橘 礼吉	73 17-3
<山に生きる6>ヒノキ笠を造って 60年-南 富士雄さん-	岩田 憲二	47	11-1	白山麓の焼畑	岩田 憲二 畑尾 均	75 18-1
いわゆる「出作り耕作」への疑問	千葉 徳爾	47	11-1	焼畑の火入れ 小松市小原にて 〈写真構成〉		75 18-1
<山に生きる7>山の生活の記録者 -上山秀之さん-	岩田 憲二	48	11-2	白山麓の集落の境について	山本 重孝	77 18-3
白山麓の地場産業	岩田 憲二	49	11-3	<山に生きる12>山村文化の実践者 伊藤常次郎さん	岩田 憲二	79 19-1
出作り地での死亡者について	千葉 徳爾	49	11-3	白峰村のオオショウブキアキタ系 フキの南限-	橘 礼吉	80 19-2
白山麓採訪記	小泉 凡 大野 一郎	51	12-1	白山麓の獅子舞-民俗芸能の伝播-	小倉 学	81 19-3
ムツシ・アラシ(山作り)-考察	善財宗一郎	51	12-1	白山麓におけるトチモチ加工法の分 布について	岩田 憲二	83 20-1
ムツシとナギハタ	千葉 徳爾	51	12-1	<山に生きる13>白山の守り主・ ・・・永井竹男さん	岩田 憲二	85 20-3
牛首袖	西田谷 功	51	12-1	<山に生きる14>白峰村堂の森の出 作り生活 中山喜四松・イト夫妻	岩田 憲二	87 21-1
いわゆる「焼畑、出作り」への視点	橘 礼吉	52	12-2	金沢近郊に出没!!ニホンオオカミ	千葉 徳爾	87 21-1
白山信仰の広がり	岩田 憲二	53	12-3	白山の地名はどのようにしてつけら れたか	石野 春夫	93 22-3
白山麓の農業水利	河合 隆司	53	12-3	白山の水	金崎 肇	94 22-4
手取川ダム建設と白峰村桑島地区	小浦 吉久	53	12-3	鳥越一向一揆まつり〈表紙〉	小川 弘司	95 23-1
鳥越城と一向一揆	波佐谷 聡	54	12-4	白山麓町村の人口の動き	寺本 要	95 23-1
<山に生きる8>出作りと水害の思 い出-加藤文吉さん-	岩田 憲二	55	13-1	鶴来ほうらい祭り〈表紙〉	小川 弘司	96 23-2
白山麓出作り地における水の利用	千葉 徳爾 大野 一郎 小泉 凡	55	13-1	白峰村 雪だるまウイーク〈表紙〉	小川 弘司	97 23-3
「みどり」と木の実	松山 利夫	57	13-3	吉野谷村 グリーンデー〈表紙〉	小川 弘司	98 23-4
白峰村太田谷の出作り	岩田 憲二	59	14-1	オオシラヒゲソウにまつわる伝説	小川 弘司 米山 競一	98 23-4
文弥の山里・てくまわし	北出 甚章	62	14-4	白峰村河内谷大空 旧愛宕八郎家〈表紙〉	小川 弘司	99 24-1
白山麓の焼畑 アラハタカブラ・エド カブラへの視点	橘 礼吉	62	14-4			
東二口のMさんへの手紙 てくまわ しに関して-	花井 正光	62	14-4			
				《自然公園・その他》		
				自然保護雑感	岩田 憲二	47 11-1

ブナ林の自然観察～春から初夏にかけて～	上馬 康生	47	11-1	ファミリー登山の山-白山 白山の保護と利用に関する報告書から	野崎 英吉	72	17-2
白山自然解説員の活動	美馬 秀夫	47	11-1	自然に親しむつどい〈写真構成〉		72	17-2
白山自然保護センター新庁舎の竣工にあたって	浅井 孝雄	48	11-2	鳥越城跡〈表紙〉		78	18-4
白山自然保護センター新庁舎〈表紙〉	岩田 憲二	48	11-2	中宮展示館に求められているものは？ -アンケートの結果から-		79	19-1
白山自然保護センター新庁舎施設図		48	11-2	スミソニアン自然史博物館の教育活動-海外研修レポート-	東野外志男	80	19-2
記念講演要旨〈貴重な白山の自然〉	粕野 義夫	48	11-2	山でクマに出会った話	上馬 康生	81	19-3
ジライ谷野猿公園〈表紙〉	岩田 憲二	49	11-3	登山道の保護と復元～白山高山帯を例として～	叶田 久雄	83	20-1
中部ドイツのブナ林から	谷田 一三	49	11-3	21世紀の国立公園〈講演要旨〉	瀬田 信哉	84	20-2
白山麓における土石等の採取について(白山地域自然保護懇話会から)	田中 宏明	50	11-4	白山国立公園指定30周年記念講演会		84	20-2
水没前の桑島〈表紙〉		51	12-1	白山の自然に寄せて〈講演要旨〉	加藤 幸子	84	20-2
清浄ヶ原〈表紙〉		52	12-2	「白山の自然」フォトコンテスト 〈写真構成〉		85	20-3
手取川-ダムと水	野崎 英吉	53	12-3	国設白山鳥獣保護区管理センター	永吉 興 殊才 実	85	20-3
手取川ダム〈表紙〉		53	12-3	スイス国立公園を訪ねて	林 哲	85	20-3
大日・手取川の遠望〈表紙〉		54	12-4	白山国立公園の指定と辻村太郎先生	金崎 肇	86	20-4
蛇谷の露天風呂〈表紙〉		55	13-1	インドネシア、クタイ国立公園を訪れて	野崎 英吉	86	20-4
この夏の白山	前越 康隆	56	13-2	ただいま工事中！-登山道の整備- 〈写真構成〉	杉岡 孝彦 野上 達也	87	21-1
市ノ瀬野営場〈表紙〉		56	13-2	自動車であふれる白山	細谷 義男	88	21-2
四年目を迎えた本庁舎	田中 宏明	57	13-3	地図を描いたことがありますか？ 地図の作成・加工システム-GISについて-	渡邊いづみ	88	21-2
白山蛇谷で集中的に発見 タカチホヘビ	戸田 光彦	57	13-3	白山の自然観察会	永吉 興	89	21-3
手取溪谷綿ヶ滝〈表紙〉		57	13-3	インドネシアの国立公園	野崎 英吉	89	21-3
獅子吼高原〈表紙〉		58	13-4	雪の上の足跡〈写真構成〉		89	21-3
市ノ瀬野営場オープン		59	14-1	愛される展示館をめざして	米山 競一	91	22-1
加賀禪定道の室	梅 典雅	60	14-2	300年後、この木は大木になっているのだろうか？〈写真構成〉		91	22-1
ユネスコから白山へ視察に	水野 昭憲	60	14-2	施設案内		91	22-1
加賀禪定道半世紀ぶりに復活〈写真構成〉		60	14-2	中宮展示館キャラクター いぬわし君		91	22-1
白山の自然観察会に親しんで	西野 文	62	14-4	中宮展示館リニューアルオープン 〈写真構成〉		91	22-1
釜清水の弘法池〈表紙〉		63	15-1	自然観察会スケッチ	木田真由美	93	22-3
白山のシンボルマーク決定！		64	15-2	白山ブナ植林地の下草刈り体験会と ブナ林の自然観察のさそい	細谷 義男	93	22-3
ブナオ山のニホンカモシカ	下家 智見	65	15-3	整備されたエコライン	杉岡 孝彦	97	23-3
白山カモシカ 保護地域と調査	田川 匡士	65	15-3	始めにゴミ掃除あり	四手井英一	100	24-2
吉野谷村中宮の蛇谷峡〈表紙〉		65	15-3	白山スーパー林道開通のころ	高桑 守	100	24-2
尾口村瀬戸の御鍋〈表紙〉		66	15-4	白山の川に学んだこと	谷田 一三	100	24-2
白山の思い出-中西悟る堂先生らと共に-	木村 久吉	67	16-1	「通巻100号」を迎えて	詠 利明	100	24-2
白山麓の自然観を追って	広瀬 鎮	67	16-1	白山自然保護センターのあゆみ		100	24-2
アメリカのイヌワシを訪ねて	上馬 康生	68	16-2	はくさん索引		100	24-2
蛇谷いま むかし〈写真構成〉	野崎 英吉	68	16-2				
こんな発見、あんな記録8 野猿広場 出席表(1983~1988)	野崎 英吉	71	17-1				
加賀禪定道に避難小屋完成	郷原 吉宏	72	17-2				

施設だより

中宮展示館から

中村 武

中宮展示館は、雪崩のためブナ林展示室が閉鎖中で、楽しみに来られた方にはご不便をおかけしましたが、今夏は天気の良い日も続き、最盛期には多数の方にご来館いただきました。ありがとうございました。館内や河原からは子供たちの元気な声が響きました。セミは鳴き始めるのが少し遅かったようですが、人間の子供たちに負けないぞとばかりに、日中はアブラゼミやミンミンゼミが、夕方になるとヒグラシの合唱が聴かれました。

季節は、秋となり日毎に深まりを見せています。空にはアキアカネが空高く飛び、足元には秋の花々が咲き、動物たちは冬への準備に忙しそうです。もちろん木々は色とりどりの装いに身を包みだしています。自然は季節ごとに違った姿を見せてくれます。また、その感じ方にも人それぞれに違いがあるように思います。みなさんが感じた秋の自然はどんな感じ方だったでしょうか？



市ノ瀬ステーションから

海崎 夏樹

今年の夏も市ノ瀬キャンプ場は利用者でにぎわいました。市ノ瀬ステーションでは、ほぼ月に1回のペースで観察会をおこなっています。8月には市ノ瀬近くの岩屋俣谷川で「水生昆虫をしらべよう」というテーマでミニ観察会を実施しました。観察会の参加を呼びかけたところ、25名もの方に集まいただきました。観察会の中で川の様子を見たり、実際に川の中に入りどのような生き物がすんでいるかも手にとって観察してもらいました。参加者と話しながら生き物とのふれあいができました。

川や池などの水辺は生き物の宝庫です。見方を変え、少しミクロの目で除いてみるのもおもしろいものです。湿った暗い場所など、なにげない所に少し耳や目を傾ければ、生き物たちはすぐ姿を現してくれます。



中宮展示館蛇谷自然観察路での1コマ

センターの動き (6月21日～9月20日)

- | | |
|--|---------------------------------------|
| 7. 20 白山登山環境適正化連絡会第2回
(本庁舎) | 8. 25 ミニ自然観察会 (市ノ瀬ステーション) |
| 7. 15 県民ナチュラリスト講座②
白山の自然シリーズ (A) (金沢) | 8. 24, 25 いしかわかんきょうフェア
(金沢) |
| 7. 21 ミニ自然観察会 (市ノ瀬ステーション) | 8. 26 石川県保健環境センター
中国人研修生見学 (本庁舎ほか) |
| 7. 22 県民ナチュラリスト講座③
白山の自然シリーズ (B) (金沢) | 8. 27 大阪市扇町高校人文学科見学
(中宮展示館) |
| 7. 31 中国民間友好訪問団 (本庁舎ほか) | 9. 5 千葉県立中央博物館視察
(本庁舎ほか) |
| 8. 1 自然公園指導員会議 (本庁舎) | |
| 8. 9 岩手県環境保健部自然保護課視察
(本庁舎ほか) | |

編集後記

本号は「通巻100号特集号」とし、OBの方々からの思い出話を書いていただき、また当センターのあゆみをふりかえってみました。

一言で24年と申しますが、この四半世紀にもわたる間、当センターが本誌を発刊し続けられたことは、手前味噌ながらそれだけでも価値あることのように思われます。

24年という年月の間に、自然保護に対する考え方も大きく様変わりしてきました。当時はまだまだ自然保護に対する意識も薄く、自然保護センターというものの存在自体、あまり認識されなかったようにも思いますが、現在は自然保護に対する理解も深まり、そしてその推進に向け、全国的にも自然保護センターと名の付く施設が数多くつくられるようになりました。

今後もこの「はくさん」の中で、白山の自然や人文の紹介を通して、自然の大切さをわかっていたいただければと思っています。私自身、このセンターに来てまだ2年目になりますが、この特集号の編集にあたり、白山の自然への思いを新たにしているところです。(小川)

目次

「通巻100号」を迎えて……………詠 利明… 2
「白山に思いを寄せて」
始めにゴミ掃除あり……………四手井英一… 3
白山スーパー林道開通のころ……………高桑 守… 4
白山の川に学んだこと……………谷田 一三… 5
白山自然保護センターのあゆみ…………… 6
はくさん索引……………11
施設だより
中宮展示館から……………中村 武…15
市ノ瀬ステーションから……………海崎 夏樹…15